

『子規全集』未収録・自筆漢詩拔萃写本

―黄葉夕陽村舎詩

加藤 国安

凡例

- 一、前稿に続き、子規自筆写本「黄葉夕陽村舎詩」(国立国会図書館蔵)の翻刻を行う。
- 一、子規の写本は、正字・異体字・書換字・略字を縦横に混在する。子規の古典文献の文字理解の実態を知る 上でも また書き癖や筆跡を知る上でも貴重であることから、できる限り原本のまま翻字する。
- 一、その際、『子規全集』(講談社版)第八・九巻の漢詩の部の「凡例」を参考とする。当時は活字の關係で相当 苦勞されたようだが、現在、漢字の専門ソフト「今昔文字鏡」(ここで使用したのは漢字十六万字版 エー・アイ・ネット社 二〇〇九年)を用いると、かなり忠実に翻刻することが可能である。
- 一、文字フォントがない場合は、下段の備考欄に偏や旁について説明を掲げる。
- 一、子規原本の行数・字数・割注も原状のまま翻刻する。

国立国会図書館蔵写本。子規筆写本は、『黄葉夕陽村舎詩』（長澤規矩也蔵本、『詩集日本漢詩』第九卷所収、汲古書院刊）と配列順がほぼ同じである。不同の箇所はその旨記した。また子規の批点は、原本にあるものとは一致しない。拠ったテキストに批点が打たれていてそれを写した可能性もあるが、写本の全体を仔細に調べると、自身の理解による漢字の書換（異体字・略字・俗字）が随所に見られ、また誤写（顛倒・誤字）も少しある。さらに茶山の推敲字の選択を行うなど、自身の読解による筆づかいが明確に見て取れることから、これらの批点も自らの判断で付したことを思わせる。子規文庫に『黄葉夕陽村舎詩』は蔵しないが、かなり広く出回った詩集なのでそれを見たのであろう。

黄葉夕陽村舎詩

三郎路上

略約紅楓曲荒蹊碧濱洞有家多晒柀無馬不
駄薪田沃租猶薄城遙俗自淳誰携漁釣侶曾

此避狂秦

近村有觀音釣石者或云
隱者故居觀音其名訛傳

竹外

竹外長堤直橋辺独對團露萃華知節換星象見

（卷一）

楓…「木+風」。濱洞は誤写で、「洞濱」を顛倒記号で示す（正しくは〵）。無…無の略字。薄の部首は「艹」と写す。携は、「推+乃」と写す。

（卷一）

直…直の略字。橋…橋の国字。對（樹の古字）…「木冠

更闌村遠驅蝗火人喧乞雨壇行歌逐涼忝原
濕夜燙と

龍盤

龍盤虎踞帝王都誰見當時職貢凶祭祀千年
周雅樂朝廷一半漢名儒世情頻逐浮雲變吾
道長懸片月孤懷古終宵愁不寐城鐘數杵起
栖烏

春郊

春郊絲管日喧と亦喜吾徒幽事繁。問字頻
過揚子宅。袖茶時敲叩玉川門。樓墓四百八十
寺花竹東西南北村。千里遊蹤一肱夢。病懷徒
倚向誰論。

孤雁

一駭弦声失舊行。連宵抱影傷寒塘。哀鳴但欲

の下に「對」。今、代用す。華…華の書換字。節…節
の国字。闌…闌の略字。遠…遠の俗字。忝…去の本
字。原…原の略字。

(卷一) 龍…龍の俗字。

年…年の書換字。

世…世の異体字。

起…起の俗字。

(卷一)

問…問の略字。

茶…茶の略字。敲の上に○を付け(今、「一」で示す)、

左に「と」と書く(見せ消ち)。門…門の略字。墓…

臺の略字。遊…遊の書換字。

(卷一)

傍…傍の本字。欲…欲の書換字。

尋兄弟。孤宿何謀飽稻梁。南畝西灣空片月。荻
花楓葉有微霜。枕衾秋冷江亭曉。我亦单身久
異鄉。

吉備公廟

廟在播州

公曾懷壁泣京師。主聖連城早見知。北学親傳
周礼樂。東归更製漢朝儀。為飶血食经千歲。轉
信和羹羨一時。近日書生委擣散。薦將蘋藻淚
先罍。

江州

烟水蒼茫暖意融。晴波閃爍釣絲風。五湖遺逸
家何在。六代高僧窟亦空。岳寺雲归春對外。沙
汀鴨睡夕陽中。濟川誰抱平生志。時見孤舟蓑
笠翁。

遊松本達夫別業

楓の旁…風。微…微の書換字。亭…亭の俗字。
郷…郷の俗字。

(卷一)

壁…左側「后+玉」に右側「辛」。師…師の国字。
飶…能の書換字。经…經の略字。
羨…美の本字。擣…擣に作る。
罍…垂の異体字。

(卷一)

烟…烟の書換字。閃…閃の略字。
高…高の俗字。归…帰の略字。對…樹の異体字。
睡…「目+垂」。

(卷一)

亭臺倒浸乱潮流碧嶂丹崖小十洲荣待絳紗

南郡帳 松本氏祖重政曾師事仁懋先生 勝停青翰鄂君舟 州長

候遊 田園補入新图藉 賀島本元山斥地今有上田民戸重政所開壘

文史相承幾葛裘 松本氏世好學 况有醉鄉佳弟姪 此遊

使勝島敬仲為導敬仲達夫姪 林花院果好同遊

病中早秋

層巒疊嶂勢朝東茅屋人依桂樹叢祗欲賣文

供菽水猶堪奠枕傲王公山城雨過飛禽外海

國秋生卧病中闲使曹兒誦陶集簾帷綵繚暮

林風

淀水舟中

一舡又一舡挽上柳烟间蓬窓生微白依約丈

夫山

上成川上即事

流…流の減画略字。待…待に作る。絳の糸…「糸」と

写す。縫の減画略字。停…停の俗字。

園…園の略字。图の冬…「久十」で圖の書換字。(以下、同)藉…籍の書換字。幾…幾の書換字。

花…花の略字。

(卷一)

巒…「亦十山」。勢の「壘」…「上十主」。叢…叢の俗字。

菽…菽の書換字。堪…堪の俗字。雨…雨の俗字。

國の「或」…「或」と写す。使曹兒誦…原文…「使兒曹誦」。子規、「曹兒」の左に顛倒の記号をうつ(〵〵)。

(卷一)

间…間の略字。

(卷一)

島屿不知名点と迷遠近欲問呼傷人已被归
雲隱

空上人見訪

惠休才思人誦支遁山心自知流水孤雲觀世
鳥言樵語參詩

竹休深處逃俗桂對叢辺卜居已自裁招隱賦
不須着絶交書

歲抄寄中山子幹

病居蕭索感離居夙志蹉跎復歲除月在梅梢
雲四散故人今夜読何書

一剪梅

寄佐長 以下新樂府
史茂伯 三首

淡霧濃烟滿面浮。風冷於秋雨冷於秋。懷人独
立小楼頭。奈何愁争奈何愁。」 纔說曾遊淚

隱..隱の略字。

(卷一)

流..流の俗字。觀..觀の国字。

樵..「樵十」。

處..處の書換字。

須..須の俗字。

(卷一) 歲..歲の略字。

復..復の書換字。

(卷一)

風..風の交換略字。

纔..纔の略字。

已流怕說曾遊莫說曾遊。夢魂連夜到皇州。山路悠と水路悠と。

望江南 暮春書感

春漸去奈此別情何。聽鳥莫聽無侶鳥。看花休看少枝花。更自惱人多。」春漸尽午夜兩聲中。帷帳風生燈影閃。卧知花落滿庭紅。单枕冷於冬。

賣花声 全前

把酒坐空房。强累三觴。笑時常短泪時長。人事本来無定筭。君無思量。」兩暗杏花莊。任打殘妝。奈何鸞鏡失精光。新水流春と不返。山驛江鄉。

平武州知章墓

九郎縁崖西師屺。貂蟬詎得当兕螯。云鶴皆敵

(卷一)

落..落の略字。於..於の書換字。

(卷一)

莊..莊の書換字。

(卷一) 順不同。冒頭の「三郎路上」の前にあり。

得..得の俗字。兕..兕の俗字。

將安避。上軍下軍亂爭舟。中有十將能致命。忼慨最推平武州。搏戰遮敵代父死。生氣凜々六。百秋忠孝兩全古所難。況在綺綺繻乳臭俦。賴賢忠勇類乃主。亦冒亂刃復主讎。四尺双墳官道側。想見英姿悵遲留。野史詳畧竟何意。誇揚平氏只風流。忠度櫻花敦盛笛。至今猶入市童謳。

子推子重空公見訪分得韻寒

兩後西疇泥未乾。好將農隙逐清觀。鳥語炉鳴呼睡醒。孤雲流水与心寬。苗客山堂憐昼永。惜梅村酒賀春寒。此中自有真遊在。不羨吹笙駕彩鸞。

山行

絕嶺分疆場。群嶂限東南。細路蟠修蟒。乱石簇驚駘。雲霞迎還送。岡嶽吐互含。熊館昏白日。鹿柴罩翠嵐。村落多柿栗。崕谷聳松栂。民風思義軒。

將…將の略字。能…熊の書換字。

遮…遮の書換字。死…「テ+人」。

難の「莫」…「ム+天」。綺…綺の書換字。

英…英の俗字。

子規、「只流」の間に「風」字を脱落、補う。

(卷二) 子規、了を子に誤る。重…重の俗字。

睡…「目+垂」。

真…眞の略字。

(卷二)

石…石の俗字。

驚の馬…「馬」。會…含の国字。熊…熊の俗字。

落の下に「」。その右隣に多(脱字の補足)。柿…

地形想魚蚕。幽境常自慕。遐覽副听耽。乃著謝公屐。而却陶令籃。曆日過百五。風景餘重三。仙桃紅の。藥草綠珍の。春禽響虚谷。晴照澹澄潭。迷岐向餉婦。桓杖避擔樵。世態悲艱險。勝夏喜縱探。益知巢由輩。絶無簪纓貧。榮寵人相逐。菽水我能甘。頭要即可求。跼躄竟不堪。發興忽絶叫。以意共誰談。願言招蘭友。長以結茅庵。澗流為茶井。岩洞作昼龕。暄吹長薇蕨。何必石罍甌。

二

米老耽盆沅逢石輒顛狂張敞愛其妻為画双蛾長我好在真山時裏三日糧未逐禽尚願聊以洗塵腸以行非遠涉所经皆澗岡故取生疎路蔗境疲飢忘燧嶺西北地山容尽峭藏者如温庾端委立廟堂怒者如褒鄂買勇赴敵場怪者現鬼厲冶者列姬姜寧者外蛇鬪逸者義

柿の本字。徑…崕に作る。

餘の旁…「余」。

虚…虚の書換字。

桓…植の俗字。擔樵…擔擔の誤写（ \searrow ）。樵…「樵十

心」。態の「巨」…「去」。夏…事の交換略字。寵（寵の

俗字）の龍…「龍」。發の（發の書換字）の「父」…「父」。

以…此の異体字。願…願の略字。蘭・澗の門…「門」。

岩…岩の俗字。龕の龍…「龍」。罍…與の略字。

聊…聊の本字。

澗の門…「門」。

蔗の「蔗」…「蔗」。忘…忘の本字。

鬪の門…「門」。

鶻颺或驚以鹿挺或隨而鴈行或後追將及或
進躡欲僵羶者多膚者向背互頡頑童者多尫
者青紅爛生光人事貴適意得喪誰預量苟能
投嗜欲醜石勝施嬾况以千百態一と逞仙粧
応接唯恐失留連豈為荒却恨奇絶景多在鄙
僻鄉不遭佳士賞徒使尤物藏吟詩呼木客暮
颺颺杉篁

三

白雲生巾角裊と横郊原数峰立其上彩翠媚
朝暎清溪自西來悍流齧崖根巨石布其中相
觸百雷奔櫻花雜衆芳処と香雪翻幽禽群其
間喚侶声喧と春天经甘澍風氣正晴暄孤筇
首归途廿里仍山村清境何所似觸端感自繁
憶昨携洛社北山問真涼團栞踞冷石歌呼倒
芳樽

月夜看花

驚の馬…「馬」の「卅」が「十」。颺の風…「風」。
膚の「虍」…「虍」。

爛の門…「門」。能…能の書換字。

投…投の俗字。態の「匕」…「去」。

恐…恐の書換字。留…留の交換略字。

颺颺の風…「風」。

郊…高に作る。

石…石に作る。

処…処の俗字。翻…「番+飛」。

涼…源の略字。

(卷二)

山花閑落旧時枝江月陰晴此夜思二十年来
詩酒社半归泉下半年涯

麗譙

麗譙遙对綠簑洲兩派清川抱郭流芳草柳陰
群牧馬夕陽花外杙漁舟粗通鵬鷁逍遙理未
遂江湖汗漫遊蘋雨魚風春又晚青尊誰其写
闲愁

璇璣

璇璣万古旧春冬復值辺疆息警烽荒服全為
周故地島夷半入楚新封貢通閩海三千里陰
域函閔百二重誰道霸功多詭譎當時將帥事
安農

村亭

村亭呼酒取微醺竹塢松墩日未曛漁具參差

思^思…、原本で…「悲」。子規…「思」を採る。
归…帰の略字。

(卷二) 麗…麗の減画略字。譙…「誰」。

兩…両の、郭…郭の、柳…柳の書換字

(卷二) 璣…幾に作る。

閩の門…「閔」。

閔…閔の略字。功…功の書換字。

(卷二)

臨岸曝紡車嘔軋隔林聞廟堂自有夔龍會
水長隨鷗鷺群預賀殘齡供擊壤 大家十載
已誌文

送大空上人之高野山

旧房何処昇臺陰路入層雲獨自尋魑魅語聞
杉影晴磨麴跡在石根深齋過衆寺籠山靄講
罷群僧散磬音方外原來無物累也知幽境配
禪心

題鍾道图

皂帽藍衫形相異捕鬼如鼠何快意我恨汝不
出高宗中宗朝滅彼長髮還俗鬼婆妖又恨汝
不現大曆建中間肉彼藍面鬼白佞臣肝最恨
當時不誌屠戮林甫与大真徒驅微疾三郎身
規小捨大人所嗤鬼神聰明固知之如使大寶ホウ
館不耗香囊玉笛任渠盜漁陽鼙鼓動地來六

隔…隔の古字。

(卷二)

鼎…鼎の減画略字。

籠の旁…「籠」。

罷…罷の俗字。配…配の書換字。

(卷二)

鼠…「ㄨ+四+鼠」。鬼…鬼の略字。意…誤写のため右
に書き直し。滅…滅の略字。

肉…肉の国字。白…貌の書換字。

疾の矢…「失」。

聰…聰の略字。寶…字汚れ、「ホウ」と読みを付す。

龍西幸彼崔嵬方是之時天瘡地痛九廟万姓
皆虺隤吁汝安在哉君不見城隍里社飽酒肉
湯向女兒美威福

題李白真

沈香亭北百花明。一枝濃艷傾人城。誰知花间
笑語響中含漁陽鼙鼓。嗚。鳳鳥欲集無瓊木。螭
涎嘲龍鷄聚族。力士祗知脫鞵耻。大家寧慮蒙
塵辱。庐岳松雲鎮長春。曲江蒲柳為誰綠。人世
幾回悲滄桑。空憑絵事想清。休道詩人無所用。
醉眸看破郭汾陽。

雪中還自中條

春雪如篩野無風。飛絮舞入輿簾中。同雲糝糊
去鳥没。近山隱見遠山空。僕夫忍凍數顰眉。余
亦擁褐縮頭龜。苦境由來人爭避。誰知以中樂
自隨。將策試深欵盈尺。軋坤俄為無瑕璧。吉

嵬：嵬の略字。

飽：飽の俗字。

美：弄の書換字。

(卷二)

芭：声の交換略字。鳳：鳳の減画略字。

族の矢：「失」。

庐：廬に作る。松雲：雲松の誤写。子規、左側に顛

倒の記号（／＼）を打つ。憑：憑の略字。子規、清の

下に狂を脱落。

(卷二) 中：日に作る。

風：風に作る。交換略字。

余：余の俗字。

軋：乾の減画略字。坤の次：塗りつぶし。

凶糾繩歲流波。營謀何如時賞適。归来温酒看
瓶梅。輿中苦樂兩陳迹。

行路難二首為某生作

衣裳一綻裂。即能弭縫難。再全。与君相知三十
歲。君心自能辨媼妍。口角風波君莫信。能覆君
家万斛船。北園海棠看漸衰。南軒梨花已滿枝。
重新忘故妾何恠。且思海棠未閑時。

江漢之水猶可泳。世上波濤不可航。日月之食
猶可推君心陰晴不可量。古井百竿誓不瀾。荆
棘塞路無人看。誰把秦時照臙鏡。照見妾心方
寸丹

神龍能變化。躍在淵飛在天。欲知君心所在處。
仰天俯地兩無緣。我絕玄海踰蘇山。輪摧柁折
猶生還坐上。褒斜何太險。咫尺自能凋朱顏。

輿の上部：「日十車」。

(卷二)

難の下の「Φ」…取消記号。弭…彌の俗字。

重…重の俗字。恠…怪に作る。俗字。

濤…濤の俗字。

瀾の門…「門」。荆…荊の異体字

淵…淵に作る。国字。

兩…兩の書換字。輪…一度消して左脇に再書す。

還…還の俗字。

笠岡途中

崑崎机捏竹輿跳。路抱崖根一線遙。水急漁村
初發。閘港喧。賈舶方閑。猫。鷓鴣。回渚懸晴照。燕
子輕烟落午潮。独面東風思友社。滄波応接玉
江橋

幽齋

幽齋枯坐昼如年。暗恨無端滅復然。誰得人生
齡滿百。又聞斗米價過千。午簾不動花香王。春
暈徐消燕語円。欲振貧閭還自笑。農家本熟五
窮縁。

横尾送道光上人

猫児山畔鳥声愁。鶴子橋橋辺柳色稠。送者不如
橋下水。随君直到緑叢洲。

咏史

無鬚類宦者。多鬚似羯胡。奇禍應有自。不閑鬚

(卷二)

輿の上部…「日十車」。

初…初の俗字。叢(發の異体字)の「父」…「爻」。閘…
閘の略字。輕の旁…「全」。

(卷二) 齋…齋の交換略字。

坐…坐の書換字。滅…滅の略字。

徐の旁…「余」。閭…閭の略字。

(卷二)

橋…橋に作る。国字。

(卷二) 咏…詠に作る。俗字。

鬚の旁…「湏」。宦…宦に作る。

有無。

僻処

僻処無觀豫。困懷有嘯吟。朋侶十年別。軋坤孤
往心寒山橫落日。村樹待歸禽。植杖瞻衡宇。松
筠夕靄深

困討

困討亘山路微醺不憚勞。一郷人共井。並舍馬
同槽鳥影寒塘淨。樵風暮嶺高。世間無限事。至
味在村醪

雪日至自桃谷

初飄行袖拂偏輕。稍集枯□鋪未平。植杖方知
巾角重。歸村已見竹身橫。斜侵梧上融成暈。漸
積簷端崩有声。魯國例忝煩史筆。試深階砌尺
將盈

(卷二)

困…幽の書換字。嘯…嘯の交換略字。軋…乾の略字。

(卷二)

憚…憚の交換略字。

樵…椎に「…」。

(卷二)

飄の風…「風」。輕の旁…「全」。□…英・莢に読める

が判然とせず。平仄として…平声(英)の字。

斜侵…、原本で…忽來としその右にこう改める。

國の「或」…「或」と写す。

栢谷途中

乱石崩沙路不分。松杉風外午鷄聞。昇平四海
無閑地。墾破窮山幾疊雲。

首夏

世間無計繫青春。驚殺霜毛照鏡新。榆莢兩收
烟漠々。魚苗風動水粼々。晴簾槐影鳴炉静。午
几書声乳燕馴。闲檢奚囊旧詩句。花時遊跡未
全陳。

晚行限韻

有待円沙鷺立。無心遠樾雲還。舟横独樹回岬。
牛下斜陽断山。
駅路鈴声不断。林塘鳥語知還。幽人相見而笑。
木未層々暮山。

(卷二) 栢..栢に作る。

昇..昇の国字。

疊..疊の異体字。

(卷二)

驚の馬..「馬」。

簾..茶山の原本..沙として、その右に簾と改める。

几..原本..檻として、その右に几と改める。檢..

檢の交換略字。

(卷二)

田家

葛覃藤蔓夏木暝。牧犢隔林声相応。陂塘閘閉
風始薰野川堰成路正濼。楊柳貫魚三兩童。累
騎老牛入竹叢竹叢數里擁閘巷。屋影參差嫩
翠中僻鄉人樸乖争少。相通乞假親隣保。東家
有井常相共汲北舍生兒時更抱。嗟我平生懷
憂虞目耕何似躬耕好。

中秋飲河相君推宅

一輪晴照幾神州。匹馬孤閨終古愁。頼有雲林
招小隱聊將吟酌答中秋。山空老木千章影。天
近明河万里流。偏喜明光無變態。年々今夕以
同遊

十咏物之一 絲

吉凶如糾繩。端緒誰得知。朱紱人所恋。緑綺事
堪悲。禁網非踈濶。弋者紛相追。織烟能爍山。素

(卷二)

隔…隔の古字。

有…原本は撃として、その右に有と改める。常の下
は書き損じ。虞…虞の俗字。

(卷二)

幾…幾の書換字。

隱…隱の書換字。

明光…朋交に作る。子規の誤写か。態の上部…「態」。

(卷二)

紱…紱の、綺…綺の書換字。

濶の門…「門」。

練固可緇。恐君經綸材。或觸縲綆機。何当解印綬。澄江理釣絲。

意行

意行尋僻徑。屈曲豈辭煩。林密全藏寺。峒低半露村。竹陰殘雪白。岩際宿雲昏。雉兔多相識。相逢笑不言。

偶成寄古川翁

木榻蒲筵一架書。脩筠毒櫟數椽廬。病將廿載狂猶在業。必千秋髮已疎。野曠春雲低堦樹。溪回千靄擁村墟。多君指畫軍營如。手自編籬種菜蔬。

金崎路上示志村仲敬

心事行相語。回蹊波影中。市腥魚蟹氣。港濶舳舻風。薦鶚書頻上。盟畝輿暫同。江雲懸別思。縹

徑の「工」・「土」。解…解の異体字。

(卷三)

徑の「工」・「土」。藏

(卷三)

廬の略字。廿…丹(書換字)に作る。

樹…樹の減画略字。

畫…畫(画)の書換字。種…種の俗字。

(卷三) 金…金の俗字。

蟹…蟹の俗字。汽…氣の書換字。濶の門…「冂」。

舳…舳の異体字。畝…漚の略字。

緗數東

晚翠堂集看棋

松堂醞酒会棋社。声丁と問晝長。觀者自樂
当局苦攻守。一日幾戰場。重瞳恃力終敗死。四
日多智自雄張。鴉軍晋王起。冀北素車秦主出。
道傍倦鳥斜飛林。景曛笑論輸贏。拳杯頻如把
奕。某比世事誰非十九道中人。

山行即事得処字

泉響滌塵襟。松陰好箕踞。奚囊帶兩來。樵擔載
雲去。微倦數呼杯。過清思着絮。狂香何処花。月
黑不知処。

露坐

深巷人定四無声。蘋風荷氣夜清澄。一榻追涼
移中泚。不覺衫袂露華凝。仰看河漢橫頭上。牽

(卷三)

醞の旁…麗。

起…起の書換字。

(卷三)

樵…「樵十」。

微…微の俗字。着は著に、処は樹に作る。

(卷三)

華は華の、看は看の書換字。

牛織女喚歆鷹。

夜赴笠岡途中

困憇尋涼処。孤雲亦且停。進潮鳴暗石。去艇帶
秋星。鷗渚晴猶濕。漁濂夜自腥。呼童餘濁酒。三
酌犒輿丁。

塞上曲 録二

烽火城辺戰始回。牙旗帳下宴方閑。沙鶻叫雲
と氣惡。復聞驕虜入龍堆。

隣營無語雁声過。戍卒三千齊枕戈。漢月夜寒
玄菟塞。胡霜秋渡白狼河。

画麟

毛物千名長為麟。蒞撫何法制群倫。猫柔害物
笑磨刀狼顧。善媚馬食槽。黒猪眠処醜方聞。黄

(卷三)

困…幽の書換字。涼…涼に作る。

犒の旁…「高」。輿…「具十車」。

(卷三)

虜の「虍」…「虍」。

(卷三)

撫の旁…「無」。

猪…猪の書換字。醜…醜の減画略字。

狗歎時書既焚。蝮虎猛惡社嵐。妖狐九尾兜
三穴以輩比朋貪尊榮。衆嗥狺と惑主聽。君若
猶豫久秣飼。敗如燎毛身狼狽。權璫指鹿二世
屠飲徒如牛独夫誅。駕御終失乱九州。覆亡今
古貉一丘。請看騶虞礼讓鄉。俄作群雄犄角場。
誰舐莖毫写聖瑞。或寓戰臣司原志。裸虫之長
皆自賢。狂言莫作遼豕看。

即事贈道光上人

秋氣蕭森葉下初。清茶話旧意悽如浪蹤到処
逢。為別浮世看来盈是虚。庭竹無声風細と井
梧有 兩疎と闲愁以際憑憑誰遣一軸佳篇正
趙予

画猿

急灘日夜咽且流。兩岬青山相對愁。三峽多兩
天易暮旗頭松尾暗烟霧。何人写以断腸声。使

既…既の国字。虎…虎の俗字。嵐…鼠の略字。

權…權の書換字。

御…御の書換字。終…纔の交換略字。

戰…獸に作る。子規の誤写。

(卷三)

虚の声…声。

有の下は空白。響の字脱落。憑…憑の略字。

趙…起の字に作る。

(卷三)

对…对の交換略字。烟の大…「太」。

烟…烟の書換字。

我西想白帝城。一声啼破巫山雲。下有南遷万里人

富士帶虹图

晚虹截雨と声歇。真形乍現乱雲間。玲瓏雪膚
映彩暈疑見白鳳舞瑞烟。醉卧画前梦紫府。玉
版徵我会群仙五色神芝金光草。始信富士即
蓬山徐福指点来時路。百丈丹梯横半天。

丁屋路上

柳塢梅墩入牛晴江鄉臘月已春生風收木末
鳥將語暖到波心水有芭仍見諸曹除旧弊近
傳三府擢時英去年今日山陽道群盜如毛白
昼行

勝島敬仲檣舟来笠岡迎西山道光二子
及余遊春余適病不舫舟輿行踐約已抵
尾路而舟尚阻風引領累日悵然成詠

(卷三) 图の冬：「久十ツ」で圖の略字。

雨：雨の書換字。瓏の龍：「龍」。膚の「虎」：「虎」。

烟の大：「太」。

金：金の俗字。

徐の旁：「余」。

(卷三)

牛：午の誤写。

波：波の誤写。芭：声の交換略字。徐の旁：「余」。

(卷三)

余：余の俗字。輿：「只十車」。

已：既に作る。

津樓幾日掛奚囊梅已摧殘桃欲芳無事春眼
偏自羨遲人昼漏轉長添窮通敢謂隨時樂放
達麤知与物忘如使鶯花未全老何妨風雨滯
归航

途中

曾読救荒譜粗知野蔬名蘋茗芥蕒蕒沿道指
且行

廣嶋訪頼千秋分得蚩字

離居屈手幾秋蚩夜兩窓酒滿餅十載趨朝
頭未白举家迎客眼中青雲低隣屋木陰邃石
倚勾欄苔气香喜見苻郎耽紙筆童儀不倦侍
書櫺

宮嶋

彩舟銜尾倚汀沙隱映仙山五色霞孺内潮囿
廊九曲街頭鹿狎市千家諸平威燄悲黄土二

長添…添長の誤写（顛倒）。
麤…「鹿十」。

（卷三）

荒…荒の書換字。道…途に作る。

（卷三）

俱…誤字の右側に書き改める。

欄の門…「門」。香…馨に作る。苻…苻の減画略字。

倦…倦の書換字。櫺…櫺に作る。

（卷三）霞…霞の俗字。

銜…銜の書換字。

帝宸遊想翠華懷古何人同以意四隣歌吹徹

宵嘩

伊兎山中得上字

雲閉一線天。兩壁杳相向。來路在何辺。蜿延笠
擔上

題野泊图

蓬窗結隣倚磯前。南船擁妓北攤錢。往來笑語
相觀狎。不必通名叙寒暄。鄉言各自訛難辨。紛
哢只聞終夜喧。商人從來輕離別。抛釘卸帆是
家園。明朝如借風水便。蜀兩吳雲兩渺然。

患店

戲似
応節

帝憐斯身常帶寒。扇以炎氛烘五官。或憎我輩
誇曝背。伐彼層冰加双眉。一身氣候湏臾轉。燕
雪未消吳生喘。八寒焦熱感何業。平生極口訕

嘩…「口+華」。茶山の原本は譚に作る。

原題…伊兎山中以清泉石上流為韻同土賦二首に作
る。其の二首目。(卷三) 天の下に「○」があつた
と思われる。杳…森の略字。

(卷三)

磯の幾…「幾」。笑…笑の国字。
叙の余…「余」。
是…即に作る。輕…「車+彳」。
如…「若」を消して右側に書く。

(卷三)

帶…帶の俗字。

眉…誤写、左側に肩と訂正。また子規、段標を付す。

佛法「幸然隔日賜寬暇。散帙誦对古人坐。」世間
冬涼君知不。朝來恩門晚來讐。狂と附勢逐臭
輩東走西奔不少休。

正月六夜諸友來會 庚戌

身安蹇劣避恩榮。時把嬉遊答太平。王曆入春
總數日農談卜夜已三更。低簷斜漢寒無影。繞
石流澌暗有声。今歲雅筵從以始。花陰柳底莫
辭盟

夏日

避兩行人聚樹根。楚言齊語笑喧と。須臾雲散
天將夜各自東西南北行。

石埭風生淨夕漪。四郊炎氣欲収時。柳身繫馬
と摩痒駭綠毯と長短絲。

暇…暇の俗字。

冬…炎の略字。恩の大…「太」。

輩…輩の書換字。

(卷三)

恩の大…「太」。

繞…纔の略字。斜の余…「余」。

(卷三)

樹…樹の略字。

行…奔の誤写。韻の踏み落としになる。

摩…磨の誤写。

羽中

川明知日暮烟直。慙。夙。収。暫得談。終。暇。聊成踐
勝遊雲。辺。僧。磬。杳。林際市燈浮。归路沿田洫。涼
と暗水流。

夏日即事

忽逢毛筍翠成竿。還見櫻桃紅滿盤。袖上猶沾
葑杖淚。膝前未尽綵衣觀。一林殘簡悲餘澤。二
頃荒田念遺安。適有山禽出巢去。哀鳴恋と繞
林端。

目合狂癡透世縁。誰言偃蹇薄榮遷。苦吟桓杖
闲看石。微醉荷鋤静導泉。恩許養痾耽隱趣。身
叨賜俸保殘年。孤懷觸緒傷夙木。月影林容共
悄然。

春来霖雨一何多。花事無痕秧事過。喜見芭蕉

(卷四) 以下の配列、やや順不同。

慙.. 覺の古字。談の旁.. 「采」。

沿、原本.. 「沿」(書換字)。

(卷四) 「羽中」詩の前にあり。順、前後す。

餘の旁.. 「余」。

膝.. 膝の書換字。餘の余.. 「余」。

荒.. 荒の書換字。

桓.. 植の俗字。

恩の大.. 「太」。

傷の旁.. 「芻」。

抽大葉。愁聞牟麦作飛蛾。鄉隣時訴魚饑若。藩
鎮今蠲虎政苛。清卅陰陽無滯散。埃看三百取
秋禾

清議紛紜彼一時。東方文教漸看熙。虛傳徵側
侵隣部又見相如使外夷。大塊噫嘘归不尽。空
洋波浪接無涯。書生自古多迂願。徒駭閑愁逐
歲滋

始登鑿と石呈同遊諸友

石在千
光寺南

山背秋水と背山と重水複秋天寬。一杯一帶
磨明鏡点綴翠岩丹巘间。千光寺南攀崖曲。閑
看風帆断還統一帆忽出遠松林。直掠山頭没
暮嵐一帆徐入乱島中。時見崑罇出桅尖。東南
濶処幾千頃水天一色蕩清廻。衆帆翻翻如白露鷺
群相逐遙向遠山翻。前湾泊舟と銜尾。危檣如
林擁津市。中有彩舸蒞笙歌。知是載妓去随波。

鎮…「金十真」。滯の旁…「帶」。埃の矢…「失」。

塊…塊の略字。嘘の旁…「虛」。

(卷四) 「羽中」詩の後にあり。順不同

没…没の書換字。

徐の旁…「余」。罇の「虍」…「厓」。

濶の門…「門」。廻…迴に作る。翻を消し(見せ消ち)

上方に翻と改める。露…誤写、欄外に朱で「鷺」。舟
と…舩とに作る。蒞の「父」…「爿」。

又有柀樓人圍繞。知是攤錢会三老。」鳴柳漸遠
夕陽沈。水波始恬山影深。」山皆珎松雜奇石。人
撫龕鱗躡虎額。以石鑿と踏有声。蟾芒亦可着
數客。」勝槩從來我所求。他時何吝導以遊。主人
不答客亦默。松風稷と吹吟愁。」六橋三泖懸鯨
海。祇有清幽傳繪事。吾生吾願了幾時。以日此
情聊可慰。」沙禽相喚度塩田。万家樓影欲夜天。」
手撰歸杖猶未趲。貪看幽事顧且指。冥際火見
宿獨漁。遠水明滅山模糊。

卯山と中似子礼君壽諸子

兩日山遊遺俗紛。轉知佔畢讓耕耘。射麋籬畔
厨皆富煨栗崑頭饑亦芬。牛跡縱橫連石棧。機
鳴斷統咽峯雲荊公既敗温公韻。以事村氓総
未聞

陳图南像

珎.. 珍に作る。珍の俗字。撫の旁.. 「撫」。

躡.. 「足十頁」と写す。

橋.. 橋の国字。

以.. 此.. 此の異体字。

趲.. 起の書換字。

滅.. 滅の略字。

(卷四)

咽の大.. 「太」。

(卷四)

宋時新賜號唐代旧藏名。曾感青山夢。長辭紫陌榮。五朝經乱日。一臥托餘生。却嫌馳丹詔。頻教熟寐驚。

備前路 上

春風輿醉向天涯。策輿何鄉不我家。以去芳山一千里。長亭楊柳短亭花。

河内道上望金剛山有懷楠中將

縹緲仙雲透翠微。金剛峯色藹斜暉。中輿偏藉睢陽守。大舉徒勞玉壁圍。海樹鬱葱分甸服。郊田衍沃入皇畿。山河長載英雄恨。悵望荒宮想指揮。

芳野歌

童時已聞芳野勝。老來始看芳野花。山腹山背花為膚。就裡何處最花多。夾路忝列卅里雪。千

號…號の異体字。

經の「工」…「土」。餘の旁…「余」。

驚の馬…「馬」。

(卷四)

輿…上部「貝+車」。策…乗の略字。

(卷四)

藹の曷…「曷」。斜の余…「余」。

(卷四)

看…看の書換字。膚の「虍」…「虍」。

忝…森の交換略字。卅…世の書換字だが、ここでは

樹叢生一團霞此山有花來幾時長使窮谷擅
韶華士女屈指計花候遊賞不辭道路除二月
三月好風日颺徑日作箒竹譁余自尋芳去較
遲猶見香霰迸飴飶遊人未散花正謝花謝人
散春如何春花不改閱人卅人卅代謝情可嗟
憶昔南都称偏安御床寂莫寄崑岳九世復讐
真英武驕盈無如守成難濫賞抵致憤怨積營
宮誰問財力殫前門拒屨後門狼再朱纒除又
高觀再見熒惑入南斗笠水北流長森漫泉鳩
巫蠱事已去况乃忠良頻摧殘独有元老准涼
后正統撐得半壁天当初旧物新入手駕御群
雄豈無權顧望難掩田李罪寵異翻辱渾馬班
豕牙不豬縱反噬猶幸閱墻徒经年昔人看花
何情態今人看花且盤桓觀者不知憂者心清
時誰問乱時艱余今对花独懷古夕阳又下花
林端迭嗣盟寒仍兵草南人枉唱烏頭白

泉鳩

辰太子
潜匿地

田李

田希鑿
李楚琳

渾馬

渾威
馬燧

卅の転用。

除の余…「余」。

颺…、子規「嵐十吾」と写す。径の「工」…「土」。

正…方に作る。

卅…ここでは世の書換字として使用。

都…渡の誤写。莫…寞に作る。崑…子規「山十只」

と写す。峦…巒の略字。濫の旁…監。致…致の書換

字。屨…虎の異体字。再…爾の略字。徐の余…「余」。

熒…「火」。森…「水十火」。蠱の「虫」…「火」。

准涼…涼准の顛倒〈〉。

壁…壁の誤写。

掩…掩の俗字。寵の龍…「龍」。

閱(閱の書換字)の門…「門」。经の旁…「ス十土」。

態…「能十心」。

余…「余」。阳…陽の略字。

辰…辰、威…威に作る。起…起に作る。代用す。

迭嗣

南北講和約兩統迭嗣及將軍義持負前約立称光帝官軍復起自是後二百

年率無寧日

鳥頭白

芳野鳥頭白歌見芳野拾遺

玉水路上

南都山翠北都連淀水斜通笠置川壞道久無

變輅過當帰芍藥滿春田

鈴鹿関山中

吊古朝登三谷山尋芳夜宿六田灣五畿未尽

閑遊貞苦雨淒風鈴鹿関

三谷在須磨六田在芳野

鳥羽磨

麗譙花外竹枝声短艇何处載妓行曲浦穹碣

小平遠不知島背是鵬程

舟舩収澳簇危檣鳥羽城頭正夕陽颺母横空

雲气患孤鷗飛滅大東洋

割注の「自是後」のは…子規の補足。原本になし。

無…無と写す。

(卷四)

斜の余…「余」。

鑾の金…「金」。

(卷四) 原本、関の字なし。

閑、間に作る。奥の「メ」…「夕」に作る。今、代

用す。興の異体字。磨…子規、广と写す。

(卷四)

麗…麗の略字。譙…「誰」…。処…辺に作る。

檣の旁…「双十面」。颺…「風十具」と写す。今、代用。

望野間内海感涼典既作

娶妻当得陰麗華生子須如李西子以事古今
人所艷能兼二者將軍是如何一朝与狂謀煽
戰塵汚鳳樓身既伏誅二子戮妻抱藐孤事夫
讎浮雲慘愀山日移内海風潮晚凄其奕葉威
名片時梦奇辱千載被人嗤太原遺孽幸雄武
末路無如恣跋扈鶴鵠原荒又雌鷄祗有怒濤
来弔古

蛎崎公子将還松前携具圓山宴別諸子

席上有詩次韻以謝時余亦西归

誰家亭榭好臺遊置酒飛欄俯帝州一座才名
傾上國滿天風月近中秋樹連万井晴雲迥山
擁三宮佳氣浮明日東西溝水別停杯深夜帳
舍愁

病後松虞臣来訪分得韻蕭

(卷四)

麗..麗の略字。

所..所の異体字。動..脱落を補つたもの。

愀..淡に作る。

扈..簷に作る。

(卷四) 携..「推十乃」と写す。

欄の門..「」。

國の「或」..「或」と写す。迥..迥の交換略字。

(卷四) 蕭..蕭の略字。

鶯鳴島樹已春韶
百里相思命短橈
傲骨難供今世用
吟魂賴喜故人招
柳逢麗日猶無力
松過嚴冬轉自驕
多謝囊中詩一軸
清新偏起茂陵消

三月尽日同諸子賦分得斜字

風絮烟藤寂鈞家
一尊邀客餞韶華
魚苗噉喙渠流濁
燕子呢喃野日斜
塵世誰從闲裡過
霜毛徒愍病中加
去年今日和川路
飛鳥川頭正落花

小集探韻

一村麻麦小書權
竟日林頭啼郭公
新水洿池蘋葉兩
殘芳籬落鳥兒風
春声市近桑陰外
屐響人归竹影中
夏淺西疇事猶少
且分詩韻課隣童

魂の鬼…「鬼」。
起…起の本字。

(卷四) 斜の余…「余」。

烟…煙の、寂…寂の書換字。噉の旁…「貪」。
斜の余…「余」。

愍…覺の古字。川…州の誤写。

(卷四)

權の旁…「龍」。洿(汚の書換字)の旁…「夸」。

挿田歌同諸子賦

林塢陰昏標有梅。穉苗拂と可移栽。今年麦事未全畢。已被鳴禽苦死催。昨雨今雨漲溢渠。不消桔梗與踏車。西疇東畝相呼応。碌碡從橫土如酥。西家と僅數十口。舉村聚救唯恐後。鼓鉦作節人作隊。須臾挿遍幾千畝。東舍孤孀雀樣癯。縹緲滿身委泥塗。大兒時抱啼兒來。同陰溝對立乳哺。野陰茫と風景暮。只聞謠声怨且慕。瀟畔竹喧餉童還。津頭水鳴疲牛渡。書生鹵莽事謠吟。摘藻何益徒苦心。誰知蓑唱嚶嚶裡。傳得爾風七月音。

侠客

戸頭取酒太粗豪。笑喚胡姬附錦袍。暴虎老拳剛似鉄。腰間閑却赫連刀。

浦子集將探九州諸勝、留宿草堂、有詩見

(卷四) 挿の旁：「十伸」。

梗：樺に作る。桔梗はキキョウ、桔樺はネツルベ。子規の誤写。與：與の略字。節：節の俗字。挿の旁：「十伸」。畝の田：「由」。原本は縹：藍に作るが、子規の方がよい。對：樹の交換略字。

(卷四)

戸(土十戸)：墟に作る。俗字。笑：笑の本字。錦の金：「金」。虎：虎の書換字。鉄：鉄に作る。

(卷四) 子：子の書換字。

贈、次韵以酬、

十日奚囊挂竹扉。江湖不歎友生稀。廟堂一鶚
非無路。天地孤鷗本息機。共說新詩吟得瘦。誰
知古道戰來肥。枯藜搜遍名山秘。的是今時大
布衣。

老将

分題
限韻

幾回杖劍掃塵砂。四海如今已一家。射力未衰
時自試。刀瘢猶在向人誇。鬢邊尚帶淮西雪。鞍
上曾携庾嶺花。壮志由来期馬革。恨將歌舞老
京華。

松風館

君家衡宇近吾庐。竹径沙堤十里餘。綠酒尊前
新画軸。烏皮几上古農書。鉅蘿場圃鳥争果。落
葉池亭童喚魚。不妨事隙時来往。莫言多病故
人疎。

鶚の鳥…「鳥」。

瘦…瘦の俗字。

搜の旁…「叟」。

(卷四)

誇…誇の俗字。

携…「推十乃」と写す。

(卷四)

庐…廬に作る。略字。径の旁…「ス+土」。餘の旁…

「余」。鉅…垂の書換字。

亭…亭の異体字。

四條納涼图

少女挨携幾万人。時装一樣越絺新。紫巾認得
為姣子。黒齒知他是近臣。

錦棚銀燭媚新粧。觀笑誰知己曙光。雛妓醉嬌
過畧約。遥傳隱語喚檀郎。

村童騎牛图

炊烟横野夕阳空。家近溪南竹樹叢。嬉戲終日
始知倦。艸间分路各西東。胸宇未嘗著文字。世
途何问有窮通。牛背馱過太平象。花边流水柳
边風。

赤馬関懐古

蜚雨茫々海上村。水濱何处问英魂。祇闻波底
皇居在。誰信人間老佛存。鷓首不還悲楚沢。鵬
程無際接厓門。腥風吹断蓬窓夢。島樹汀雲鬼

(卷五)

携…「推十乃」と写す。

錦・銀の金…「金」。

(卷五)

烟の大…「太」。叢…叢の古字。戲の「虐」…「厓」。

艸…草の略字。胸…胸の異体字。原本の「胸」をこ

う改めたもの。子規の博学の一例。嘗…嘗の書換字。

途の旁…「余」。

(卷五)

茫…茫の俗字。魂の鬼…「鬼」。

鷓…鷓の略字。鷓・鵬の鳥…「鳥」。

気昏。

鎌倉城雉赤敷菑。豈独南征事可悲。却有闔門
齊殉節。不如一弟急燃萁。于今彼以成千古。自
昔豪奢餽幾時。一闔妓王秋草唱。奈何芳臭並
枯萎。

得近藤君蝦夷書却寄

事多用書
中所言

新政汎愛愍蠢愚。遙分使節赴辺隅。奈何蠢愚
論得難。文身徒訝章甫冠。曾闻理繩急愈乱。何
况東夷動横叛。風化有漸誰預期。機會易失要
及時。

大洋波濤日夜驚。小舩直輾鱸背行。夷人羅拜
謁使者。語言啾唧若鳥鳴。穹庐饗客魚為飯。雪
粘毛髮氷生面。南望奥州幾千里。牛斗依微低
不見。

敷…敷の国字。

闔の門…「門」。

闔の門…「門」。草…艸に作る。

(卷五) 蝦…蝦の国字。所…所。

冠…子規「冠十」と写す。今、代用。

驚の馬…「馬」。

長門楊井謙藏袖詩見訪次韻以謝

半世沈痾未有成。自憐霜髮滿頭生。衡門牛跡
春耕路。隣壁燈光夜誦聲。底事藩朝珠履客。來
尋沙渚白鷗盟。樛材宜向荒村老。錯被人傳高
尚名。

古神嶋

二千餘歲幾滄桑。只見寒川入海長。田墾武皇
停鷁処。村荒嘯老踢毬場。

神辺駅

黄葉山前古郡城。空濠荒驛半榛荆。一区蔬圃
羽柴館。数戸村烟毛利營。

次三宅考祥見贈韵

昇平宦路也羊腸。轉覺山林引興長。志气憐君

(卷五)

鷗の鳥：「鳥」。

(卷五) 嶋：島に作る。

餘の旁：「余」。

荒：荒の書換字。嘯：嘯の略字。

(卷五) 駅の馬：「馬」。

葉：葉の書換字。濠の旁：「豪」。驛の馬：「馬」。荆
：荆の異体字。

(卷六)

昇：昇の国字。興：興の減画略字。

肉生髀。烟霞笑我疾居盲。鐘辺墟落翻晴鳥。木
末峰峦挂夕陽。頼有風騷同樂地。喜携尊酒叩
幽莊。

尋涼

何処尋涼去。行窮野水涼。泉從庭際涌。雲傍屋
端屯。大石晴猶濕。長林中欲昏。尋涼何処好。涼
在水涼村。

何処尋涼去。行窮野水涼。漁童沙際聚。浣女竹
辺喧。田湍分漣影。徒枉落潮痕。尋涼何処好。涼
在水涼村。

諸葛武侯图

漢季英雄鬱若林。最思忠憤一门深。三分割據
争才畧。二表精神照古今。馬謖曹姦俱白骨。吳
駙魏狗各丹心。空因絵事悲当代。西顧雲天晚

肉…肉の俗字。霞…霞の俗字。疾の矢…「失」。翻
…翻の俗字。墟…「土+墟」と写す。

峦…巒に作る。騷の馬…「馬」。携…「推+乃」と写す。
叩…叩の書換字。

(卷六)

何…傍の本字。

林の下字は書き損じ。左脇に午と改める。

欲…欲の書換字。

涼…源の書換字。

潮(平声)…、原本…「漲」(仄声)。意味としては「潮
痕」で不都合はないが、平仄としては仄声の所。子
規の勘違いと思われる。

(卷六)

據の声…「声」。

姦…「女+六」と写す。代用。骨…骨の減画略字。
駙…驢の略字。魏…魏の略字。因の大…「太」。

日沈。

间行与吉本生同賦得耕字

休鳥嗜と嗜語。溪澌決決と。風將吹病去。草自喚
愁生。霽郭寒初退。春郊人已耕。君如減書課。我
亦伴闲行。

(卷六)

郭..郭の書換字。